

令和6年度 学校評価（職員・保護者）の結果から

教職員自己評価

12月17日（火）～12月20日（金）

保護者アンケート

12月13日（金）～12月15日（日）

保護者アンケート回答率

71%

教職員・保護者共通の項目について

○肯定的な割合(そう思う・ややそう思う)において、昨年度と比べ保護者の評価があがった項目

項目10：道徳の授業や各活動を通して、生徒の心を育てる教育を推進している。

項目15：特別支援教育の充実に努め、特別な支援が必要な生徒に丁寧に関わっている。

項目20：学んだ知識・技能を活用する能力が高められるよう、発展的内容の効果的な指導に努めている。

○肯定的な割合(そう思う・ややそう思う)において、昨年度と比べ職員の評価があがった項目

項目7：生徒のケガや事故、様々な問題について、スピード感をもって適切に対応している。

項目8：生徒の実態をよくつかみ、いじめや暴力のない集団づくりに努めている。

項目10：道徳の授業や各活動を通して、生徒の心を育てる教育を推進している。

項目11：教育相談や日常の指導を通して生徒をよく理解し、個々の悩みや生徒のトラブルに適切に対応している。

項目14：各種行事や生徒主体の教育活動を工夫して行っている。

項目15：特別支援教育の充実に努め、特別な支援が必要な生徒に丁寧に関わっている。

項目18：授業で生徒一人一人にきめ細かく指導し、適切な評価を行っている。

項目21：感染症拡大防止を含めた生徒の健康維持増進に努めている。

項目22：ガイドラインに則り、部活動を通して、生徒の心身の育成に努めている。

●職員と保護者で、評価(そう思う・ややそう思う)に特に大きな隔たりがあった項目

項目18：授業で生徒一人一人にきめ細かく指導し、適切な評価を行っている。

【職員：100% 保護者78.3%】

●職員と保護者で、否定的な評価(あまりそう思わない・そう思わない)が共通していた項目

項目19：基礎的・基本的な知識・技能を定着させるために、ドリル学習や家庭学習の習慣化に努めている。

次年度に向けての改善点

「道徳教育」や「特別支援教育」「発展的な学習」に関する保護者の評価が概ね上がっているのに対し、「きめ細かい学習指導」、「適切な評価」や「基礎的・基本的な知識技能の定着」等の項目が低い傾向にある。保護者の関心は学習面が中心であり、基本的な学習の積み重ねとていねいな学習指導を学校に求めていることがわかる。言うまでもなく、学習は学校の教育活動の中心であり、教師の大きな役割である。一人一人が授業改善を行うと共に相互授業参観等を実施しながら、指導力の向上に努めていきたい。そして、学習指導の効果が適切な評価にもつながっていくよう学校全体の研修を計画的に実施し、生徒・保護者の期待に応えていきたい。

以上の点ならびに学校関係者評価を、次年度の学校経営方針や重点努力事項に活かし、井野中学校の強みや生徒の良さをさらに伸ばしながら、より一層信頼される学校づくりを推進したい。